

意見交換会概要

- 国土交通省港湾局より、日本側が考える現在の訪日クルーズの課題やそれに対する取り組みを説明。
- 参加旅行会社7社より、以下の旅行会社の立場で感じる訪日クルーズに関する意見があった。

- 寄港地が同じであることを理由に旅行をやめるものもいる。寄港地の多様化は重要な課題。実際、昨年、中国発着クルーズでは寄港が珍しい神戸に寄港した7泊8日の商品は非常に人気が高かった。寄港地の多様化に向けて港のハード整備のほか、CIQ体制の強化が必要。
- 旅行会社がクルーズ船をチャーターし寄港地観光を自ら手配する場合、クルーズ船会社から寄港地観光収入に相当する保証金を課せられている。このため、旅行会社は免税店から保証金に見合う一定程度のロイヤリティを受け取る必要がある。
- クルーズ船会社は船内での収益も考慮し、寄港地滞在時間を約8時間程度と設定することが多い。出入国手続きにも時間を要する中でこれでは寄港地滞在時間が短すぎる。この短い時間の中で慌てて買い物し、船に戻って返品を希望するなどの問題も発生している。寄港時間をもっと長くして欲しい。
- 駐車場スペースの確保が十分でないために、寄港地観光に向かうバスへの乗車に時間を要するケースも散見される。
- 寄港地観光について、中国人旅行客の来訪を拒否する店舗があり、受け入れ可能施設の混雑を激化させている。
- 寄港地における案内板等の言語対応、ボランティア手配、パンフレットの準備等は最低限必要な準備でありこれらをしっかりと整えるとともに、日本の四季に沿ったテーマを設けた寄港地観光コース作りができればなお良い。
- 寄港地のターミナル施設整備について、日本の場合、クルーズ船専用のターミナルの整備が整っている港は限られており、貨物船対応の岸壁を利用することも多く、利用者に提供できるサービスの質が低い。
- 特に、沖縄など人気寄港地については、クルーズ旅客向けの日差しよけや雨よけなど機能の高度化に関する要望が多い。
- クルーズ船旅行は天候の影響を受けやすく、緊急時、臨機応変に寄港地の変更が出来るような仕組みを日本側で整えて欲しい。寄港地観光についても例えば広域の相互補完が可能となるような現地旅行会社のプラットフォームを構築してほしい。

- 持続的発展に向けて、両国で定期的な意見交換の場を持つことで合意した。